

## 2008年10月27日日本テレビ 定例記者会見

### 《 全文 》

<発表>

久保伸太郎社長：

最初に24時間テレビ31「愛は地球を救う」の募金総額についてです。歴代2位の10億8,366万6,922円、チャリTシャツは45万7,761枚売り上げて過去最高になりました。大人気の村上隆さんデザインのチャリTシャツには、環境に配慮する水性インクが使われており、見えないところにも工夫する取り組みを重ねています。多方面から高い評価をいただきました。ありがとうございます。

続いて、男性アナウンサーの落語です。男性アナウンサーがはじめての落語に挑戦し、それを皆様に聞いていただきましたが、その後たくさんのお誘いがありまして、今回は麻布フェスタ2008という港区のお祭りに出演します。ただお祭りに出かけるのではなく、今後ともアナウンサーという語りを専門とする職業の研鑽の場としても活用していきたいと思っています。

それから、サザンオールスターズの人気楽曲をモチーフとした全33話のドラマ「the 波乗りレストラン」で、ワンセグ機能を使って視聴サービスの実証実験を行います。

### 1. 新番組及び最近の視聴率の状況

記者：先週は好視聴率が出ているようですが、まず10月改編の新番組及び視聴率についてお願いします。

久保社長：新番組の全体的な傾向としては、バラエティ番組に少し手応えのあるものが出てきたかなと思います。これに気を緩めることなく、盛り上げていきたいと思っています。

小杉善信編成局長：月曜日22時のバラエティ番組「しゃべくり007」が、先週初回放送で13.6%でした。10月7日スタートの火曜日21時「誰も知らない泣ける歌」と「しゃべくり007」の2つは順調な滑り出しと思っています。今回の改編で他局は、ドラマはかなり良いものの、バラエティや情報系の番組は全滅に近

いなというような印象を持っています。先週だけでも、新番組8つが視聴率1ケタです。2つだけ視聴率2ケタでした。私たちの新番組は2つとも視聴率2ケタをキープしておりますので、そう意味では良いのかなと思います。ただ、ドラマの視聴率が思っていたよりも表れていないなという感じです。

久保社長：情報系の番組では、私たちが掲げている13歳から49歳のコアターゲットの視聴者層の獲得を中心に、視聴率が良くなってきたので、ノンプライムで1位が獲れています。これを安定させたい。ゴールデン、プライムは、前週、前々週4位で、やはり平日、特に月曜日から立ち上がるところをうまく取り込めば、上昇気流に乗れるのかなという感じが出てきたと思っています。

平日昼帯のベルト番組は、好感触が出てきたので、スポンサー含めて強く訴えていきたいと思いますし、私たちが得意とする朝の「Oh a ! 4 NEWS LIVE」、「ズームイン！SUPER」といった情報系、ニュース系の番組にうまくつながっていってくれればと思っています。

ドラマでは、今年1月に放送した、観月ありさん主演の「斎藤さん」が東京ドラマアウードで賞をもらいました。その観月さん主演の水曜ドラマ、「Oh にっぽん」は、アウトソーシングの問題を取り上げて、時宜に適ったテーマですし、時代に訴えていく内容を含んでいると思います。私たちの意図、或いは制作者の意図が伝えきれていないかもしれません。ただ、内容的には時代の要求するものに合っていると思いますし、主演の観月さんも張り切っているので、私どももよくPRしていきたいと思っています。

「スクラップティーチャー～教師再生～」は2ケタの視聴率を獲得していますが、火曜ドラマ「オー！マイ・ガール！！」はちょっと苦戦してます。

当たりはずれに一喜一憂することなく、私たちが常に掲げている時代の要求に合ったもの、視聴者ニーズ、スポンサーニーズにも合致していくようなものを取り上げていく姿勢に変わりはありません。

## 2. CWCへの取り組みと、年始年末の番組編成の方針

記者：CWC（TOYOTAプレゼンツ クラブワールドカップジャパン2008）への取り組みと、年末年始の番組編成についてお伺いします。

久保社長：CWCについては、このスポーツソフトの認知度を高めることが、最大の課題だと思っています。昨年は、浦和レッズが出場し、視聴率も23%を超える数字を獲得することができました。新しい世界レベルの戦いが日本で行われ、日本テレビで中継されることへの認知度が相当高まったと思っています。

アジアチャンピオン、ないしはJリーグのトップチーム、必ず日本チームが1チームは出られるようになりました。関心が高まってくることを切望しています。

私、旧トヨタカップからこのCWCに切り替わって以来、すべての試合を最初から最後まで、全部スタンドで観戦していますが、世界最高級のハイレベルの試合であることは間違ひありません。特に今年は、日本にも非常にファンが多いマンチェスターユナイテッドが出場しますので、非常に期待しています。

年末年始にかけて、LPGA、日本女子プロゴルフの最終戦があります。今年は様々な話題を持った選手が登場するということで、これも非常に期待度が高いです。ゴルフ日本シリーズJTカップには石川遼君が出場することを切望しています。それから、全国高校サッカー選手権大会、箱根駅伝というふうにつながっていきます。

私ども日本テレビでは、ジャイアンツが6年ぶりに出場する日本シリーズ含めて様々なスポーツソフトを展開していきますが、こういうちょっと先が見えないような時代にあればこそ、スポーツソフトの醍醐味を私どもの中継技術をもって伝えていきたいと思っています。

### 3. プロ野球放送の総括と来期の展望

記者：巨人軍がクライマックスシリーズで勝って、11月1日から日本シリーズが始まります。合わせて、WBCの監督についてお願いします。

久保社長：繰り返し申し上げているように、テレビのスポーツソフトとして、野球は一番人気があります。中でもプロ野球、プロ野球の中でもジャイアンツ戦が、やはり一番人気を誇っているのは事実です。巨人軍には勢いが出てきました。特にベテラン、移籍選手ばかりでなく、若手が登場して、いろんな重要なシーンで活躍していることが、新しいファンの獲得にもつながりますし、テレビの前から離れていたお客様も、戻ってきていただけるのではないかなど期待しています。それが第一ですね。

WBCの監督については、私どもが発言する立場ではありません。せっかくプロ野球人気が高まっているところですから、ファンの期待に応えるよう円満に決着がつけばいいと思っています。

記者：クライマックスシリーズで、土曜日の優勝を決めた試合が20.7%、瞬間最高28.9%と、20%を超えたのが4年ぶりということですが、日本シリーズへの期待と、第2戦東京ドームの試合を他局が放送することについてお伺いしま

す。

久保社長：後者の質問からお答えすると、日本シリーズは、放送権を持つている球団ないしその球団の業務委託先がセールスをするのではなくて、日本プロ野球機構がその出場球団の推薦を受けてセールスするので、私どもから直接的なお答えはできませんが、第2戦を放送予定のテレビ朝日さんも、プロ野球中継にはちゃんと取り組んでこられたからだと思います。

クライマックスシリーズは、まだまだ発展途上のポストシーズンゲームですね。昨年の様々な検証をした上で、今年の形ができたのだろうと思いますが、第2ステージについては、1勝のアドバンテージが与えられる形で、ペナントレースの勝利者が、クライマックスシリーズに臨んでも有利になる条件が付与されました。これからも様々な改善点など検討されるのだろうと思いますが、いずれにせよ、やはりゲーム内容ですね。日本シリーズについては、この勢いでの圧勝をジャイアンツファンは望んでいるでしょうが、私どもからすると、ぜひ中身の濃い、内容のあるゲーム展開を両軍の選手に期待したいと思います。

記者：小杉局長にお伺いします。ジャイアンツ戦がこれだけ盛り上がってはじめて視聴率20%を超えるました。それまでの今年の最高視聴率が15.8%で、世の中が野球を必ずしも観る時代じゃなくなったことに対して、編成局長はどうにお考えですか。

小杉編成局長：巨人戦のナイターに限らず、スポーツソフト全般に関して1つの傾向があるかなという気がします。みんな結果には興味があるんですね。ティーン層も含めまして。ただし、長時間ずっと見続けるということを最近しなくなっているなという印象を受けますし、そういうデータもあります。

そんな中でサッカーの日本代表戦、ここ何回か放送しております。ワールドカップ最終予選といいますと、やはりもっともっと視聴率を取らなきゃいけなかつたソフトでもありますし、巨人戦に限らずに、すべてのスポーツソフトに関して、多少そういうことが言えるのではないかと思います。

視聴ターゲットも、前はティーン層が取れていたサッカー関係も、ティーン層が取れていないとか、巨人戦含めまして、スポーツソフト全体に対してひとつひとつデータを検証しながら、どういう編成が一番いいのか決めていきたいと思っています。

#### 4. 営業状況及び放送外収入について

記者：では次に、営業状況及び放送外収入についてお願ひします。

久保社長：営業状況につきましては、第2四半期、従来の中間決算の公表直前ですので、詳細は御勘弁ください。

最も皆さんの関心が高い景気動向を敏感に反映するスポット市況について概略だけ申し上げますと、10月に入ってからも厳しい収入環境が続いています。

一方、タイムセールスに関しては、北京オリンピックは終わりましたが、単発・その他でかなり頑張っており、前年比の実績を割り込むという事態には至っていません。私どもとしては両方の出稿ともに前年を上回る実績を確保していかないと、経営的にはゼロ成長になってしまうですから、この辺が今踏ん張りどころと捉えています。

先ほど申し上げたように、朝から昼にかけての情報系番組の視聴率が安定していただけでなく、スポンサーニーズに応えるような、コアターゲットと私どもがネーミングしている若い視聴者層を着実に獲得できるようになっているので、私どもの構造改革の取り組み、番組改編の取り組みの成果が出てきていることを、各スポンサーにも強く訴えていきたいと思いますし、すでに幾つかのスポンサーに評価していただいている。この辺が、下半期セールスの「鍵」と思っています。

記者：リーマンブラザーズが破綻した後、株価も低迷し、先行きに対する見通しがさらに厳しくなったということを感じていますか。

久保社長：一般的には広告宣伝費は最初に削るものだとよく言われていますが、急にぱったりとスポンサーの動きが止まって、出稿がいただけないという状況ではありません。

『the 波乗りレストラン』のことを繰り返し申し上げていますが、これは企画内容が非常に面白い上、デジタル化に備えていろいろな取り組みもしています。この様々な伝送経路に配信する「どこでも日テレ」という取り組み自体に、大手のスポンサーが敏感に反応してくださり、完売しました。スポンサーニーズ、視聴者ニーズをとらえ提案していけばまだ十分ビジネスチャンス、商機はあるということを感じています。

記者：放送外収入の動向は？

島田洋一常務：現在、日本テレビが関わっている映画が2本上映されています。ジブリ作品「崖の上のポニョ」は、興行収入は150億を超えています。幹事社の東宝とは、当分今の規模で上映していきたいと話し合っており、それなりの数字は期待できると考えています。

もう1本は「20世紀少年」、ご承知のように3部作の第1部で、日本テレビの幹事作品です。こちらも確実に興行収入を上げています。年内、11月の末ぐらいまでは今の規模で上映を続けたいと考えておりますので、まだまだ伸びていくだろうと考えています。

久保社長：放送外収入の今年度の柱は「崖の上のポニョ」を中心とした映画で、下半期は、幹事作品として力を入れている「252 生存者あり」という、東京消防庁に全面的なご協力をいただいた映画に力を入れていきたいと思っています。

また、楽曲関係でも「着うた」など、地上波の番組の使い方等によっては上手な収入の上げ方があることがわかってきていて、金額は大きくはありませんが、工夫して伸ばしていきたいと考えています。

## 5. 地デジの世帯普及率46.9%をどのように見るか？

記者：各局、地デジの普及を一生懸命PRしていますが、現在世帯普及率が46.9%。この数字をどのように考えていますか。

久保社長：地デジへの完全移行まで、今日あとちょうど千日。大阪の千日前でまさに今頃、テレビ各局、D-paはじめ、総務省、メーカー等、関係者がそろいイベントを開催していると思います。この数字が、期待どおりか、期待どおりでないかは、コップの水がまだ半分しかない、半分にもなった、どちらに見るかですね。

この他にも幾つか複数の調査や経験値による推測等の数字があります。例えばJEITA（社団法人電子情報技術産業協会）では半分をもう超えているという見方をしています。私どもとしてはやはり2011年7月24日のアナログ停波を何としても実現するため、関係各所と協力してやっていきたいと思っています。

記者：地デジの普及で、パソコンやワンセグでの視聴など、テレビの受像器自体はなくてもいいといった傾向が出てくるおそれはありませんか。

久保社長：これは、私の持論ですが、ご家庭にある、あるいは各個人の部屋に

ある据置型のテレビ受像器というのは、10年経っても王様といいますか、不遜に聞こえるかもしれません、相対的な地位の低下という議論は別にして、情報媒体の中では依然として「主たる情報入手の手段」として位置づけられると思っています。

様々な技術革新で伝送経路がいろいろ増えてきました。そこにコンテンツを配信していくということを心掛けますから、すべてトータルで、日本テレビの動画映像・コンテンツを、いつでも、どこでもご覧いただけすることが重要になってくる、そういう勝負の世界になっていくと思います。その中でも、やはり据置型のテレビというのは、情報入手のポータルサイトというか、玄関口として重要な地位を占めていくということには変わりはないと思っています。

記者：関西テレビの民放連の全面復帰に関してどのように受け止めていますか。

久保社長：今回の発端となった問題は、私どもにとっても大きな教訓を残しました。それをもって他山の石とするというか、この教訓を私ども含め民放各局がどう活かしていくか、それがすべてだと思います。

(了)